

長田須磨シンポジウム開催

第4回の長田須磨シンポジウムが開催されます。今回のテーマは「奄美の女性誌と食文化」。奄美に伝わる大切な文化を伝承していくために、長田さんの出生地である大和村でシンポジウムを行います。今回は、大和村の食文化の実演として、久留先生と大和中学校生徒が「月見だんご」の振る舞いも行います。

多くの皆さんの参加をお待ちしております。
(詳細は、広報やまと9月号の裏面をご覧ください)
開催日時 2025年11月15日(土)

14:00~16:30

場 所 大和村防災センター/参加無料
以下の方法で申し込んでください

- ① 右下の二次元コード
- ② 電話で申し込み場合は0997-57-2154



就学前子育て講座(10月8日)

令和8年度の小学校入学予定者の保護者9名を対象に、就学前子育て講座を行いました。

講師は、徳 裕子先生(大和村教育委員)で、「教育の究極の目標は、『主体性』『自立』その基は『意欲』。『意欲』を支える基は、『安心感』。『安心感』はすべてのつまずきを予防する・回復力・治癒力ともなる。」等、講話をしていただきました。保護者の皆さんも興味深く話を聞いていらっしゃいました。

参加された方からは、「お話を聞いて、日々の自分の子育ての悩みが飛んでいったような気がします。」また、「時代の変化も取り入れた話で、とても良かったです。」といった感想も聞かれ、大変貴重な講座となりました。



昭二兄よの四方山話 (よもやまばなし)

群島一足の速い男(昭和20年代)

戦後まもない頃、今里出身で群島一のスプリンターがいたことを最近知りました。運動会時期になると足の速い人のことが思い浮かぶことがあります。

大和村においては、今里の中元 義成氏が、誰もが認める快速男児ではないかと思います。中元氏の快速ぶりが書かれている資料を引用して紹介します。

時は、終戦直後の昭和21年秋、大島中学(現大島高校)運動会の場面で運動会最後のプログラム、群島内14市町村対抗リレー。一人200mを5人の選手でつなぎ1000mを競うリレー競技です。大和村チームは、アンカーに中元選手、第四走者には伝説のスーパースター戸円の朝山 寿三選手の最強メンバーで挑みました。これまで上位に入ったことはなかったのですが、この年は微かな期待をしていました。

毎年、笠利チームが強く、今年の優勝も笠利だと誰もが信じていました。なぜなら笠利のアンカーは、当時奄美群島一番の快速選手だったのです。大観衆がかたずをのむ中スタートが切られました。大和村チームは、中団やや後方に位置取りしていましたが、徐々に上位に進み、第四走者の朝山選手がバトンを継いだときは6位まで上がっていました。その後、朝山選手が激走し2人を抜きアンカー中元選手に4位でバトンを渡しました。その時のアンカー中元選手の快速は、伝説として後々まで語られています。バトンを受け取った中元選手が、一気に前の2人を抜き去り、なんと前を走っている笠利の絶対王者のアンカーと並び、ゴール前で抜き去り、大和村は、初めて対抗リレーで優勝したのです。常勝1位の笠利に大和村が勝利したことで千人余りの大観衆は信じられないと熱狂のるつぼと化し、見物人からは「あの大和のアンカーは誰だ」との声が聞こえてきました。中元氏は、今里小学校から旧制福山中学校へ進み(現・霧島市福山高校)2年生の時に大島中学へ転向したために無名の存在でした。

中元氏は、その後教職の道へと進みますが、宇検村名柄中学校勤務の時に日射病にかかり、最愛の妻と乳飲み子を残し25歳の若さでこの世を去りました。本人の残念な気持ちと無念さを想い、集落の宝である青年を失った今里集落は悲しみにくれたと伝